令和6年度 第3回 学校運営協議会

1. 日時 令和7年2月17日(月) 9:30~11:30

2. 出席者

(1) 学校運営協議会委員

【委員①】元特別支援学校校長

【委員②】浜松市役所社会福祉課課長

【委員③】一般企業常務取締役(地域コーディネーター)

【委員④】卒業生保護者

【委員⑤】自治会副会長(地域コーディネーター)

(2) 校内教職員

校長 副校長 事務長 幼稚部主事 小学部主事 中学部主事 支援部主任 教務主任

3. 会議次第

(1) 校長挨拶

(2) 校内参観

(3) 学校経営 自己評価報告

(4) 来年度の学校経営について

(5) 委員からの感想・御意見

(6) 第2回コンプライアンス委員会

(7) 校長挨拶

4. 協議等記録

○学校経営 自己評価報告

〈幼稚部〉

繰り返しの活動の中で、自分の思いを伝えたり、友達の意見を聞いたりすることができた。しかし、まだまだ教師の仲介が必要である。幼児の発達について、基本的な発達を研修し、指導に役立てていきたい。ICTに関しては、視覚的な支援として多く活用ができた。両親教室や先輩からの話を聞く機会を設け、保護者に必要な支援ができた。

〈小学部〉

子どもが減る中、他学級の子どもたちとのつながりを大切に取り組んできた。教員の専門性の維持・向上のために、授業作りについて自発的な勉強会を行ったのが良かった。ICTの活用が増えたが、ICTありきではない、目的をきちんと押さえた授業を行っていきたい。上島小学校との交流活動や校外学習など外部の人とのかかわりを通して思考を深める活動を行うことができた。

〈中学部〉

健康的な身体づくりの一環として、栄養教諭による食に関する授業・スクールカウンセラーによるレジリエンス(立ち直る力)の授業を実施。ICTに関しては、効果的に活用しているが、ICTだけにならないように日本語力・基礎学力の向上を目指し、情報モラル・情報リテラシーに関する指導も重点的

に行きたい。コロナ禍でできなかった交流を今年度から再開し、よいかかわりをもてている。

〈支援部〉

教員の入れ替わりが多かったので専門性に関する基本の研修を行ってきた。通級でも電子黒板を使って、ICTを活用した授業を行った。よりよい聞こえ方で情報を得られるためのICTの活用を進めていきたい。本校の様々な学部の幼児、児童、生徒とのかかわりを今後も続けたい。地域の方向けの理解啓発活動も今後も続けていきたい。

〈各分掌〉

教務課 読書月間読書月間には読書運動会、クイズ、スタンプラリーなどの企画を行うことで、普段よりも多くの児童生徒が来室したり、普段借りないジャンルの本を積極的に借りる姿が見られたりと、読書活動を推進することができた。習慣には至らず、読書月間後は読書量が減ったので、来年度はイベントを年に2～3回実施するなどの工夫をしていきたい。

研修課 授業や活動でICTを活用する場面が増えている。ICTありきの授業ではなく、ねらいを明確にしたICTの活用が進んでいる。今後は、児童生徒とともに教員もメディアリテラシーを高める必要がある。

自立活動課 各種学習会（手話学習会・コース別学習会）を計画通りに実施することができた。授業公開が少なかったため、他の教員の授業を見て学ぶ機会を確保していきたい。OJTを活用して、聴覚障害児教育における指導技術や知識を学んでいきたい。

保健体育課 児童生徒が毎月保健目標を立てて実行し月末に反省する機会を設けることで、目標を守ろうとする児童生徒が増え健康に対する意識が高まった。

情報教育課 教員、児童生徒ともにICTを活用する場面、使い方を広げることができた。児童生徒の効果的な学びにつながるICTの活用について互いに学べるようにしたい。

生徒指導課 全校でいいこと見つけを行った。自分のよさを見つめたり、相手のよさに目を向けたりすることができた。日常的な意識付けにはなりにくかったため、学級目標に人権の目標を取り入れていきたい。

寄宿舎 9月より浜松視覚の寄宿舎で生活するようになり、一緒に活動する視覚舎生のことを念頭に置き、行事の内容を考えたり、話し合いを進めたりすることができた。

○来年度の学校経営について 校長より

幼小中学部あわせて35人から28人へと、来年度は子どもの人数が7人減の予定。人数が少ないからこそ学び合える学校を目指して経営を行いたい。いろいろなつながりを大切に深め合っていきたい。

いきいき

- ・自分とは異なる意見も認め、互いの考えを交換し合う教育活動の充実。
- ・自分の身は自分で守るための、防災教育、安全教育等の体験的活動の実施。

わくわく

- ・障害の特性を踏まえた支援の充実と「わかる」授業の実践。
- ・ICTを効果的に活用した、基礎学力の定着と主体的に学び合える授業づくり。

しなやか

- ・乳幼児教室、通級指導教室（16人から22人に）、相談室の連携・信頼を基にした支援の充実と積極的な情報発信、ニーズにこたえる支援の実施。
- ・デフリンピック：浜松でブラジル選手団が合宿。ぜひふれあいながらこころの成長を。
- ・分掌が7課から5課へ。少人数の教員でも、いきいきわくわくする学校経営を。

○委員からの感想・御意見

委員④：授業を参観して、発音と個々への対応の難しさを感じた。発音のいい子が増えて、子どもが全員注目するまえに進んでしまう様子が見られた。音声読み取り機器等活用すると、より情報保障が手厚くできる。

校長：すべての子が「分かる」授業が基本。教員全員で考えていきたい。

委員③：県内聾学校3校での連携が大切になってくるのでは。Zoom等で一緒に授業をすれば、教員の業務削減にもなるのでは。国際化が進む昨今、デフリンピックでの国際交流もぜひ力を入れてほしい。障害者雇用も進んでいる。求められる人材になってほしい。

委員①：子どもたちがお互いを大事にしながら授業を進める様子が見られた。なごやかな様子でお互いを認め合うかわりあいを大事にされているように感じた。

委員⑤：土砂災害の危険性から使えない場所が多いのがもったいない。たけのこほりなどは特徴的な活動が継続できるといい。自分らしさを主張できるようになるといい。普通校に進学する子どもが多いと聞かすが、自分らしさをみがいてほしい。

委員②：子どもたちがみんな明るいのが印象的。一生懸命見る子どもが多い。みんな挨拶ができるのが素晴らしい。共生という意味では、国でも、障害のある方も地域で生活していくことを目指している。すぐには難しいが、だれもが住み慣れた地域で暮らせる共生社会が理想。交流・寄宿舍などいろいろな経験を重ねて学んでいくことが大切だと感じる。チャンスを逃さずに経験してほしい。

○第2コンプライアンス委員会「不祥事根絶に向けての取組について」成果報告

・学校の取り組み報告

小グループでの話し合いを毎月行ってきた。原因種別にわけて自身を振り返る取り組みも有効であった。大きな不祥事なく1年間を過ごすことができた。今後も意識を高くもって職務に当たりたい。

○校長あいさつ

1年間ありがとうございました。たくさんの御意見をいただき、聴覚障害教育についてはじめから見直したいと思う。授業づくりに力を入れたい。子どもたちのために、わたしたちに何ができるか常に考え続けていきたい。R7年度は学校運営協議会を4回実施したい。